

## 稲葉和夫教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長・経済学会会長 松 本 朗

稲葉和夫教授は、2017年3月をもってご定年により立命館大学教授の職を退かれます。稲葉先生は、1978年3月神戸大学大学院経済学研究科博士課程を修了され、同年4月に高知大学人文学部助手に任用されました。本学部には、1986年4月に助教授として着任され、1993年4月に教授に昇任されています。したがって、稲葉和夫先生は着任後、31年という長きにわたって立命館大学および経済学部の教育・研究の発展のためにご尽力をいただいたこととなります。

立命館大学経済学会では、この間の稲葉先生のご功績を讃えるとともに、そのお人柄を敬愛し、『立命館経済学』において退任記念論文集を編集・発行することにいたしました。

稲葉先生は本学に赴任されてから長年にわたり、学部および本学の統計学、経済統計学分野の教育を担当され、多くの学生、社会人学生、院生を指導し育てられました。さらに、大学院MPED (Master Course in Economic Development) コースの立ち上げ、発展に尽力され、本学部のグローバル化にいち早く貢献されてきました。先生が育てられた内外のOB・OGは現在では本学部の発展を支える重要な力になっています。課外活動の面では、26年間にわたって女子陸上部の部長を担当されてきました。

先生は、こうした教育面以外にも大学行政面でも活躍されています。経済学部学生主事を皮切りに、学部主事、企画調整委員長を担われた後、大学院研究科長、大学協議会委員、評議員を担われました。また、大変厳しい時期に教職員組合委員長に就かれ、教職員の目線から学園動向を見守られてこられました。

一方、学外では環太平洋産業連関学会会長として学会の発展に寄与されただけでなく、日本統計学会など多くの学会で活躍されています。また、株式会社フジテック社外取締役や東京証券取引所独立役員などの社会的な活動もされています。

稲葉先生の研究は、経済統計学を主軸に関連する広範囲な分野を取り扱っておられます。特に、マクロモデルや統計分析による海外直接投資分析、国際収支および外国為替相場に関する研究が、先生の中心的なテーマです。また、中東欧諸国、東南アジア諸国や日系企業の現地での調査研究を手がけ、日本企業の国際競争の分析を進められました。さらにこれだけにとどまらず、経済教育に関わる業績も残されています。最近では、MPEDの指導生との共著を含むアジア諸国の実証分析を精力的に行われており、MPEDコースの発展への先生の情熱を感じさせるものがあります。

稲葉先生は2017年4月以降も特任教授として、本学の教育・研究を支えていただけると伺っております。先生はご壮健であり、教育・研究に対する情熱はますます盛んであるようにお見受け

いたしますので、今後とも後進へのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。先生のみますますのご健勝とご活躍を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。